

蒲田・大森のヒップホップ

——地域性とレペゼン文化がおりなす「俺らの音楽」

蒲田・大森などの地域と、他の地域のヒップホップには、なにか違いはあるのだろうか。本論文ではこの違いについて明らかにしていく。また、他の地域とは、蒲田・大森と渋谷、新宿、川崎、沖縄などの地域のことを指している。

先行研究では、川崎などの地域は、ドラッグや酒や Tatto、BADHOP というグループの影響により音楽性や文化が他の地域と違うことが分かっているが、蒲田・大森のヒップホップが他の地域と比べてどれほど違いがあるのかが分かっていない。

そこで本研究では、蒲田・大森のヒップホップと他の地域のヒップホップの違いを明らかにすることを試みた。実際にラッパーさんやDJさんなど、計4名にインタビュー調査を行った。その結果、蒲田・大森などの地域と、他の地域のヒップホップとの違いがあることが分かった。

違いの例として、渋谷・新宿のヒップホップは蒲田・大森よりも見た目もスタイルも派手ということが分かった。実際に、渋谷・新宿などのライブ会場はクラブミュージックのような曲が多くかかっている。また、渋谷・新宿のヒップホップのイベントでは、オートチューンを使いながらアップテンポの曲が多く使われており、ライブが派手であった。このような派手さは蒲田・大森などには少ないことが分かる。

今後の課題として、インタビュー調査の量を増やすことである。今回の卒業論文に向けてインタビュー調査できた数は4名しかいなかった。インタビュー調査は量が多くれば多いほど蒲田・大森などの地域特性や他の地域との違いなどがインタビュー時の会話などで浮かびあがり、偏りがなくなってくる。